

# ロゼ

文化情報誌 ロゼ

ROSÉ THEATRE  
ART INFORMATION OF FUJI CITY  
CULTURE MAGAZINE ROSÉ

VOL. 37 2001



## ロゼ

富士市文化情報誌 ロゼ 2001年10月発行(第37号)  
発行 (財)富士市文化振興財団 〒416-0953 富士市蓼原町1750番地 TEL.(0545)60-2510代  
企画・編集・製作 (財)富士市文化振興財団事業課企画広報係 アドスペース エービック株式会社



「昨年九月、ロゼシアターでのリサイタルで、絶賛を博した錦織健が、来年オペラ・プロデュースに挑戦する。「オペラは難しくない」「はじめて観てもきつ」と面白そう!日本のオペラ歌手として思い描いていた「理想のオペラ」がいよいよ実現。

これまでの経験をフルに生かしたオペラ初プロデュース

オペラをプロデュースすることは、私にとって十年來の夢というか、デビューした頃から一度やってみたい仕事でした。初プロデュースとなる今回のオペラは、ステージで培ってきた経験を生かして、これまで思い描いていた私なりのオペラの理想像を実現できればいいなと思っています。芸術面や広報面での仕事は主ですが、歌手や指揮者、演出家の人選についても今回私が担当しました。「こういう人たちを集めるといい仕事、いい舞台ができるな」ということは、過去の舞台経験から確信が持てます。そういう意味でのオペラは、オーケストラ、歌手、演出ともベスト・キャストが実現したといえるでしょう。



制作発表記者会見(9月10日)

「コシ・ファン・トゥッテ」ストーリー  
物語の舞台は、地上で最も陽気な場所ナポリ。貴族の姉妹フィオルディリージとドラベッラの恋人、士官のグリエルモとフェルランドは、老哲学者トン・アルフォンの挑発に乗って恋人の貞節を試す二十四時間の賭けに成る。戦地に行くこと嘘をつき涙の別れを演じた後、トルコ風の変装で相手を替えて誘惑するという手順。初めは貞操堅固に見えた姉妹も、求婚者たちの押しの手先に、しだいに心を開いていく……

# 錦織健

オペラ歌手

コシ・ファン・トゥッテ  
解めよ

日本人が見て本当に楽しめるオペラを作りたい!

初プロデュース作品として、モーツァルトのオペラ「コシ・ファン・トゥッテ」を選んだのは、いくつか理由があります。まず、ある程度知られているオペラのほうがよいだろうということ。それからお芝居として楽しくて、完結しているということ。あとやはり十八世紀調の衣装を着た登場人物によって面白おかしく繰り広げられる、そんなオペラを試してみたかったというのが理由です。現代的なものでも前衛的なものでもなく、十八世紀っぽいいかにもオペラという舞台を、日本人に楽しんでもらうことを一番に考えて創りあげていこうと思います。ご存じのとおりオペラはヨーロッパで生まれた文化ですし、今では海外の名門オペラハウスが頻りに来日公演をしています。しかし日本では、まだ誰でも気軽に楽しめる娯楽として定着しているとは言い難い。この状況を打破することは、日本人のオペラ歌手とし

て歌い続けていく以上、常に考えていかなければならない使命だと思っています。

生「生」の音が、鼓膜に、脳細胞に

オペラを見るということは、決して特別なことじゃないと思うんです。ふうのお芝居を見に行くのとなんの違いもない。今ではオペラをテレビ放送やDVDで楽しむこともできますが、やはり劇場で見るのとは違う。まず自分自身の集中力が違います。わざわざ劇場まで足を運ぶのには、それだけの理由も価値もあるのです。チケットを買ってからその日まで「何を着ていこうかしら」「どこで食事をしようかしら」と思いを巡らすことから始まって、実際に舞台を見た後も「素晴らしいわね」「感動したわ」なんて話でまた盛り上がる。それらすべてが生生の舞台を見る楽しさなんです。それからもうひとつ。クラシック音楽の特徴的なことといえますが「生」の音の伝わり方、音の響き、これを存分に味わってほしい。鼓膜に、脳細胞に直接伝わる生の声、音の心地よさを体験してほしいです。

「ハイブリッド」の音の響き、それが生

見どころはなんといってもフィオ

気軽に「コシ・ファン・トゥッテ」を楽しもう

ルディリージ(澤畑恵美さん演じるヒロイン)ですね。よくこの話は、2組のカップルと老哲学者と小間使い、つまり合計6人の男女が色々な場面面で対になってストーリーを支えているため、そうしたペアで展開していく面白さが知られています。でもフィオルディリージの変ぼうが一番激しい。生真面目で高潔な彼女が、突然現れた異国人(実はフェルランドの変装のプロポーズ)は、はじめ頑なに拒みながらも、少しずつ心を開き、惹かれていく。その辺りの心の動きがこの物語の見どころです。それだけにこの役は難しいし、演じ甲斐がある役といえます。

本当に気軽に見に来てほしいです。娯楽としてのオペラをブラブラ見に来ることの楽しさを知っていただきたい。あくまでブラブラが肝心です。そしてダラダラ見て、ゲラゲラ笑って帰りにお茶でもお酒でもちよつと飲んでブラブラ帰る。ブラブラ、ダラダラ、ゲラゲラ、ブラブラ、これです。誰でも手を伸ばせば、すぐそこにあるはずの楽しいオペラが、これほど崇高なものに昇華してしまったのは長いオペラ史の中の、つい最近のこと。オペラはものすごく楽しいし、おもしろいのです。ほんと「気軽に見に来てちょよ」といった感じですね。富士市のみなさん、ロゼシアターでお会いしましょう。



2002年3月5日(火)  
ロゼシアター・大ホール  
開場18:00 開演18:30

チケット発売日:12月2日(日)

錦織 健プロデュース・オペラ  
モーツァルト  
「コシ・ファン・トゥッテ」  
Vol.1

【特別企画】  
錦織 健の  
オペラレクチャー  
12/14(金) 中ホール  
19:00~

錦織健による楽しいわかりやすいオペラのお話。本公演チケットをお買い求めいただいた方先着500名様をご招待いたします!

# 世界最高峰のコーラス！ スウェーデン放送合唱団への期待

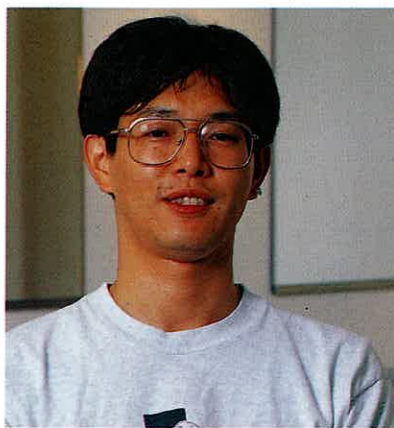
## 福島章恭

(音楽評論家・富士ベートウェンコーラス指揮者)



今年もまた、秋から年末へかけて、内外の音楽家・音楽グループによる数々の演奏会が催されるが、それらの中でも、もっとも期待すべき演奏会のひとつが、スウェーデン放送合唱団三年ぶりの来日公演である。その貴重なコンサートの一回が、ロゼシアターで行われるというのだから、まこと興奮を禁じ得ない。というのと随分大袈裟に聞こえるが、オーケストラでいえばベルリン・フィル、ウィーン・フィルと同じクラスの合唱団が、私たちの富士市にやって来るのだ、と言えば、この熱狂ぶりもご理解いただろう。

スウェーデンといえば、先進的な福祉国家であるとか、フリーセックスの



国であるとか、バイキングの国であるとか(個人的には、イングリッド・バーグマンの母国として!)を思い起こされるかも知れないが、この北欧三国の一角を担う北欧の国は、実は世界有数の声楽王国、合唱王国でもある。

スウェーデンという国が、優れた声楽家・合唱団を生む最大の要因は何なのか。実は、三年前の来日時、ある音楽雑誌の取材で、指揮者のカリユステ氏と団員兼マネージャーのアンダーソン氏にインタビューするという幸運に恵まれた。軽佻にも、「北欧の澄んだ空気と水が原因に相違ない」と想像した私は、その旨を質問したのだが、アンダーソン氏には、「それは、すべて言

語のせいです」と即座に否定された。氏によれば、スウェーデン語は自他ともに「歌う言葉」と認められるほどの音楽的な言語だそうで、赤ん坊が母親働く女性ばかりなので、保育士さん(?)の言葉を聞き、やがて口真似を始めたときから、声楽のレッスンが始まること。つまり、生きることそのまものが歌であり、音楽ということなのである。そのためか、スウェーデンでは、アマチュアの合唱活動もすっかり日常生活に根づいており、「自分で歌いたい人ばかりで、聴衆集めがたいへんです」と笑っておられた(羨ましい!富士も早くこうならないかなあ...)

そんな風土から生まれたスウェーデンの声の特徴は、イタリア式の輝かしく張り詰めた声ではなく、まるでピロッドのように、どこまでも深みがある、柔らかな声質。そして、如何なる悲劇の場面でも不健康や神経質に陥らない天性の大きさなどであるが、恵まれた環境と資質だけで、世界最高峰の合唱団が生まれるわけではない。

## スウェーデン放送合唱団

2001 11/24 土

ロゼシアター・大ホール  
開場18:30 開演19:00

それは、あくまで下地に過ぎず、さらに「どういう合唱団を目指すのか」という明確なビジョンが示され、そのために「何がなされるべきか」という的確なトレーニングが必要だった。それをスウェーデン音楽史上はじめて本格的に行なった人物が、今なお合唱の神様と謳われるエリック・エリクソン(一九一八〜)である。

エリックソンが、スウェーデン放送合唱団の首席指揮者に就任したのは一九五二年。そして、七十年代初頭にリリースされた《ヨーロッパの500年の合唱音楽》というアルバムによって、エリックソンとスウェーデン放送合唱団の名は瞬く間に世界にとどろく。ルネサンスから近代、現代にいたる幅広いレパートリー、これまでの合唱の概念を遙かに超えた、純正な発声&ハ



平成7年富士ロゼシアター合唱団による「レクイエム」公演

ーモニーと洗練された演奏スタイルにより、「合唱がはじめて芸術になった」(カリユステ&アンダーソン)ことを私たちは知ったのだ。これを実感するには、ムーティ指揮ベルリン・フィルと共演したモーツァルト《レクイエム》を聴いてみるがよい。これまでベーム盤で聴いてきたウィーン国立歌劇場のコーラスやカラヤン盤のアマチュアにも、まるで別次元の鮮烈さに魂を奪われることだろう。

《500年の合唱音楽》以後、彼らを追うように、合唱のレヴェルは世界的に上昇の一途をたどるが、エリックソンの去った今も、スウェーデン放送合唱団の絶対的な優位は揺らぐことはない。この高いレヴェルを維持するための秘訣は何なのだろうか? それをアンダー

ソン氏に伺ったところ、次の答えが返ってきた。「私たちは、つねに研鑽することを求められます。メンバーの全員(どんなベテランの団員であっても)が三年に一度の試験をパスしないと、団には残れないのです。その厳しさが団のクオリティを維持するためには絶対に必要なのです」

考えてみればスポーツの世界では、当り前の実力主義だが、終身雇用の国・日本には馴染みの薄いシステムだ。この日々の音楽活動の現場に漲る緊張感が、美しいハーモニーとアンサンブルを生む、大きな原動力となっているのかも知れない。

ともあれ、この度の公演は、富士の音楽文化にとっても大きな飛躍のチャンスになりそうだ。合唱愛好家には良き手本となり、一般の音楽愛好家には「合唱芸術」への認識を一新する絶好の機会になることは間違いない。あとは、ひとりでも多くの方に聴いていただきたいと祈るばかりである。

### 福島章恭氏のおすすめCD・スウェーデン放送合唱団名盤



《ヨーロッパの500年の合唱音楽》  
EMI CLASSICS  
指揮:エリック・エリクソン



《モーツァルト作曲レクイエム》  
EMI  
指揮:リッカルド・ムーティ  
管弦楽:ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団



《スウェーデンのクリスマス》  
日本クラウン  
指揮:マツ・ニルソン

### 福島 章恭 Akiyasu Fukushima PROFILE

桐朋学園大学声楽科卒業。音楽評論家として、94年アリオン賞(現・柴田南雄音楽賞)奨励賞受賞(本賞受賞者なし)。著書の「クラシックCDの名盤」「同演奏家編」(ともに、宇野功芳・中野雄共著、文春新書)はベストセラーとなる。来春、「CDで究めるモーツァルト(仮題)」(毎日新聞社)刊行予定。合唱指揮者として、富士ベートウェンコーラスのほか、長岡第九合唱団(新潟)、ミルテの絶女声合唱団(東京都)、ヴォイス2001(厚木市)、花の里コーラス(多摩市)、東大和の第九(東大和市)ほかを指導。ロゼシアターにおいては、「市民合唱第九の集い」(99年)、「モーツァルト・レクイエム」(2001年)にて合唱指揮を担当し、公演を大成功に導く。

# FLASH BACK

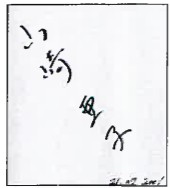
2001年4月～2001年9月  
平成13年度前期自主事業(4月～9月まで)を、それぞれの催物に寄せられたアンケートをもとにフラッシュバックしてみました。WAKUWAKU通りや本誌中で扱った公演は割愛してあります。※サインは出演者からいただいたものです。

## ワ ガノワ・バレエ・アカデミー 7/21

●すばらしい一言です。日頃の修練でしようか。山崎さんすばらしく、富士の誇りです。(70代 女性) ●気品があり技術も高く美術もとてもよかったです。またロゼで公演してほしい。(40代 女性) ●息使いまで聞こえてきそうな迫力!小顔、スタイルにも魅せられました。(30代 主婦) ●山崎亜子さんのバレエに感動して涙が出ました。(50代 女性) ●私もワゴノワの子たちみたいに笑顔で美しく踊りたい。そしていつかバレリーナになれるといいです。(小学生 女子)



レッスン風景



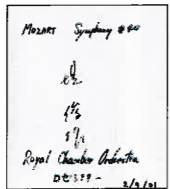
## 幸 田聡子ヴァイオリンリサイタル 8/17

●ひばりの名曲をヴァイオリンによる華やかな演奏は大変に素晴らしいものでした。(60代 男性) ●暖かいやさしいヴァイオリンの音色に心がいやされました。歌謡曲の知っている曲がヴァイオリンで聴けて新鮮でした。曲の説明があり、とてもよかったです。改めて、曲の思いもわかりました。(40代 女性) ●美空ひばりの曲をアレンジしてあってよかったです。幸田さん、とても美人でびっくりしました。(30代 女性)

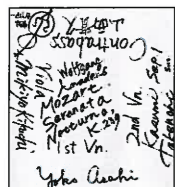


## イヤルチェンバーオーケストラ 9/2

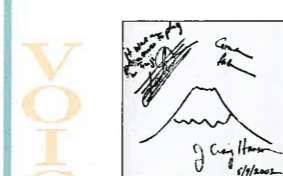
●地元の演奏家にスポットを当てた企画で良かった。静岡県にも若手の優れた演奏家の方々がたくさんいることを知って良かった。(50代 女性) ●プログラム3曲の構成が、大変楽しめました。モーツァルトの魅力をもっと知ることができました。(40代 男性)



●親しみやすいモーツァルトの曲を身近に鑑賞できる機会があり、本当に良かったです。次回の交響曲シリーズ第3回目も出掛けたいと思います。今後とも子供にも親しみやすい作曲家の曲を公演していただけたらいいです。(40代 女性) ●「フルートとハーブのための協奏曲」は長い間生で聴いてみたいと思っていました。今日は45年来の夢が叶い満足でした。第40番についても同様です。これからもこのようなコンサートを続けてください。ありがとうございました。(60代 男性)

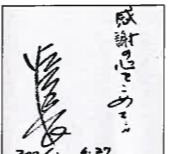
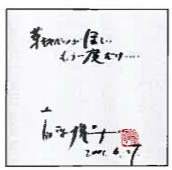


## テ レマントリオ・ベルリン 6/9

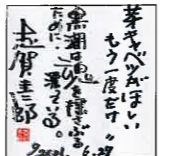


●練達の技ともいえる演奏で、大変すばらしかった。身近に素敵な演奏が聴けて楽しかった。是非また聴きに参りたいと思います。(女性) ●梅雨のうっとうしい時期に、200年前のさわやかな音と目と耳で楽しませていただきました。(50代 女性) ●マルティネーのプロムナード、とてもよかったです。色々なストレスを抱えている今、頭のモヤモヤが少しすっきりしました。ご活躍されますように。(50代 女性)

## 芽 キャベツがほしいもう一度だけ 6/27



●とうとう実際に市原さんの舞台を楽しむことができました。テレビではかり拝見し、いつかは…とせつに願っていた今日の日です。しあわせな一時でした。(50代 女性)

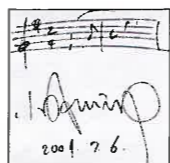


## 小 山もと子「富士の型染め展」 6/16～24

●小山先生が会場のあちこちにおられることを実感致しました。先生の思いが全て感じられる展示方法に感動致しました。先生も生涯で一番らしい個展で本当に喜んでいらっしゃると思います。スタッフの皆様ありがとうございました。(50代 男性) ●素晴らしい足跡をありがとう。富士市に誇れる芸術であることを痛切に感じました。感性というものにとても感動しました。是非伝承してほしいです。(50代 女性)



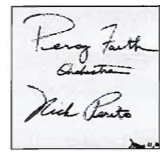
## 新 日本フィルハーモニー交響楽団 7/5



●とても良かった。感動しました。選曲も良かったです。小学生の子供2人もチケットが安かったことで連れて行くことができました。とても良い機会だったと思います。(40代 女性) ●久しぶりに本物の演奏を耳で聴き、心震える思いです。超一流の指揮者、ピアニスト、さすがでした。曲目の選曲も広く対象を求めるうえでよろしかったと思います。日本を代表する演奏者に感動しました。(60代 女性) ●仲道さんのピアノは情感あふれる素晴らしい演奏でした。「コパケンのファンになりました」その一言に尽きます。(50代 女性) ●我らのコパケン。曲も大好きな「新世界より」。他の2曲も夏にふさわしいもの。大満足でした。帰宅しても半分メモリーを口ずさむことでしょう。(70代 女性)



## パ ーシーフェイス・オーケストラ 5/11



●肩のこらない楽しい音楽会でした。一人一人が色々な楽器を演奏するのに感心しました。●日本人にもスポットをあてて色々な音楽のジャンルの人をよんでほしいです。●ロシアアターとバラと富士山に感動!!

## 2 001 MAYコンサート 5/20



●若さいっぱい演奏会でした。一人の時間が長すぎような気がします。MAYコン以外に色々な企画があればいいですね。(20代 女性) ●歌、フルート、ピアノが多いですね。●選曲をもっとポピュラーなものを演奏していただけたら…。リラックスして楽しめたような気がします。すてきなコンサートありがとうございました。(50代 女性) ●声楽やピアノだけでなく、ヴァイオリンなど弦楽器があるといいですね。(30代 男性)

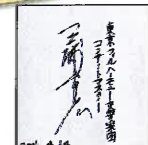
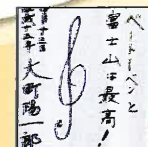
## 鼓 童 5/27

●私、芝居ってゆーかパフォーマンスをやっているんですが、次に、という一生のうちいつかやりたいと思ってたモノとすごく似て、うれあーやられたあつて感じます。くっ、いつかワークショップ行きます。絶対!! (20代 女性) ●大変感動しました。今晩のこの太鼓のひびきは70才をこえた私の心に深く深くきざみこまれました。この日本の和太鼓のよさを世界に発信してください。(70代 女性) ●私は、富士宮の「重須孝行太鼓保存会」のメンバーです。とてもいい勉強になりました。私も、お客さんに「感動」を与えられるような太鼓をたたきたいです。ありがとうございました。(学生 女性) ●すばらしかったです。すごい迫力です。外国からきて友人2人をおつれしましたが、日本が誇るすばらしい文化です。(30代 女性)



## 東 京フィルハーモニー交響楽団 4/14

～英雄～



●ベートーヴェンの交響曲シリーズ毎回楽しみに聴かせてもらっています。(40代 女性) ●私はオーケストラ部に入っています。とても勉強になりました。ぜひまた呼んでください。(高校生 女子) ●(大町先生は)昔よりも今のほうが、味わいがあると思います。若いころからファンです。(60代 女性) ●託児室があるので助かりました。また演奏会を聴きにきたいです。(40代 女性) ●乾きかけていた心が溢れんばかりの水につかって、「プルプル」しました。大町さんありがとうございました。(30代 女性)

## 劇 団四季「ユタと不思議な仲間たち」 4/29

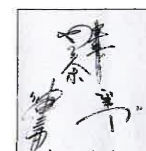
●とても良かったです。どんなにつらくても生きていかなければならないというメッセージが後からよく伝わってきました。より多くの子供たちに観てもらいたいと思う作品でした。(30代 女性)



●内容が濃くてとても良かったと思います。涙あり、笑いありのミュージカルっていいですね。(20代 女性) ●東京まで行かなくても素晴らしいキャストで観られることがうれしい。(30代 女性)

## こ ぶ茶バンドコンサート 4/30

●おなじみドリフの3/5の大爆笑エンターテインメント。なつかしいあのオープニングテーマが流れると、会場は歓声と興奮の渦。



●ザ・ビートルズ日本公演の前座をつとめたドリフターズの名演奏を3人が披露。しかしおやくそのスツコケの連発。加藤茶のドラム、仲本工事のギター、高木ブーのウクレレが客席を魅了する。●舞台は一転し「ちよっただけよ」「ヒゲダンス」や雷様が登場。この日ロゼシアターは笑いがたえなかった。



# 市川 猿之助 歌舞伎公演

ロゼシアター初御目見得を前に演目の紹介と猿之助氏に公演の見所を伺いました。「スーパーかぐや」の公演成就祈願にかぐや姫の里を訪れるなど富士市と御縁の深い市川猿之助公演、今から楽しみます。



狐忠信 市川猿之助限取り  
(富士市寄贈品)

義経千本桜 二幕  
権の木・竹藪・鮎屋

『千本桜』は三つの物語から構成され、平家の武将、平知盛、教経、維盛が源平の戦いに敗れた後、実は生き延びて平家の再興を企てているという大胆な設定のもとに書かれており、それぞれの物語の主人公、知盛、忠信、権太の三役を一人の俳優が演じきることは立ち役(男役)の歌舞伎役者の卒業論文といわれるほど至難とされています。これは、荒事、二枚目、舞踏時代物、世話物と様々な立ち役の資質が要求されるからです。猿之助は昭和五十五年七月の歌舞伎座で一日の公演でこの三役を演じ分け、これまでに都合六度にわたって三役を一日の公演で上演するという快挙を成し遂げています。

今回上演される「権の木・竹藪・鮎屋」の件りは原作五段の内の三段目にあたり、全段中最も世話物の要素が強い場面で、演出には人形浄瑠璃の色が強

勢獅子 常磐津連中

本名題を「勢獅子劇場花籠」といい、三世瀬川如卓作詞、五世岸澤式佐作曲の常磐津の舞踊で、嘉永四年(一八五二)四月、江戸の中村座で初演されました。当時は、恒例となっていた正月の曾我



(いがみの権太より)

く残っている上方式のものと、五代目幸四郎から三代、五代、六代目の菊五郎に継承された江戸前の粋な小悪党として描く音羽屋型の二つがあります。

狂言が、好評で五月頃迄上演され続けると、曾我兄弟の仇討ちの当日、五月二十八日から曾我祭といって劇場の三階の楽屋入り口に兄弟の霊を祭り、数日間最終幕に一座総出演の踊りを見せていました。元々「木下曾我忠砂路」という芝居が当たりのために作られた曲のため、現在では、舞台を江戸の二大祭である山王祭として演じるようになっていくにもかかわらず、「木の下曾我の祭」といった歌詞や、「それ建久四つのは月雨」など曾我兄弟の討ち入りの描写が残っています。

## 市川猿之助に聞く 「義経千本桜・鮎屋」の見所

演劇評論家 藤田 洋

「義経千本桜」は、「仮名手本忠臣蔵」菅原伝授手習鑑」と並ぶ歌舞伎の三大名作として親しまれてきました。とりわけ、「千本桜」は猿之助が繰り返し演じてきたことで「忠臣蔵」と並ぶか、あるいは上回る人気狂言になりました。

猿之助「私は『道行』の忠信が一九六

三年、『川連法眼館』の忠信が六四年、『鮎屋』の権太は少し遅れて七四年、『大物浦』の知盛は七五年に初役で演じました。知盛・権太・忠信の三役完演は、歌舞伎の立役(男役)の博士論文に匹敵するといわれていますが、三十歳台の半ばで達成できました。

知盛では風格を、権太では世話物の情を、忠信では狐の気配と色気が要求

されておりますが、権太を演じる場合、悪党として振る舞っていたいがみの権太が、最後には情味の濃い人物に描かれていて、その意外性を面白く感じます。」

歌舞伎の義太夫狂言では、そのモトになった義太夫(文楽)を本行と呼んでいます。

猿之助「権太の演出は、江戸と上方とでは違いますが、私は江戸の型をベースにして、本行の言い回しを入れて、少し上方の遊び人らしい雰囲気を加えております。」

戦後五十五年、その間権太を最も多く演じたのは尾上松緑(一九八九年没)の十六回(一か月二十五日公演なので約四百回)でしたが、今やそれを追うのが猿之助です。

猿之助「お蔭様で、昨年九月の大坂松竹座で、権太は二二九回演じた計算になります。『鮎屋』の前に付く『権の木』の場は、一九八〇年に初役で、二〇四回演じております。」

猿之助歌舞伎というと、歌舞伎の革新派と目されており、古典を破壊しているように誤解されやすい字句ですが、歌舞伎界では猿之助の行き方を否定していません。

猿之助「歌舞伎は常にその時代と共に歩んできましたから、次々に改良・改革をしてきました。私も先輩の行き方を見習って、守るべき基本をキチン

と守りながら、無駄なところや時代にそぐわない部分を手直しして演出しております。例えば今回の『千本桜』でも、普通約三時間かかりますが、今の生活ペースでは長すぎるので、全体を約二時間にいたします。江戸時代には飲食をしながらのんびり見物していましたが、アソビの部分をごらえて喜ばれていましたが、それでは今の観客には受け入れられないでしょう。そこで、権太の悲劇を中心にしてもう一度根本から検討して、よりよい形で見たいだこうと工夫いたします。」

猿之助劇団というと、一門の中堅、若手の層が厚いことで有名です。今回は、市川右近、市川猿弥の「勢獅子」がついています。

猿之助「私は、一座の若い人達は自分の子供だと考えております。幸いうまく成長してくれているので、今度の『勢獅子』も、曾我兄弟の討入りや獅子の踊りなど盛り沢山ですから、皆が張り切ってくれるだろうと楽しみにしているのです。」



市川猿之助  
歌舞伎公演  
11月9日(金)  
ロゼシアター中ホール  
昼の部: 13時30分開場 14時開演  
夜の部: 17時30分開場 18時開演

